

石岡市推進委員会 委員長賞

「自分達から進んで」

瓦会小学校 六年 奥村 寧心 (おくむら ねね)

私の学校では、登下校は班になることが決まりになっています。地域によって班が区切られています。私達の班では、三年生の時からあることをしています。

私達が、三年生のころは、高学年の人と時間わりがちがい、三人で下校していました。ある日、一人が、

「私達の通学路ってゴミが落ちていてるよね。」

と言いました。確かに、私達の通学路の周りには家はなく、畑と田んぼしかないのです。ゴミをすてるには最適な場所です。しかし、毎日その道を通っている私達からしたら、あまり良い気持ちにはなりません。なので、三人でふくろを持ち、通学路のゴミ拾いをしようと思ったのです。学校では、半年に

一回行なわれる、「クリーン作戦」があります。クリーン作戦では取ることでできなかった場所でゴミをたくさん取ることができ、ゴミ拾いを終えると、達成感がとてもありました。それ以来、通学路にゴミが落ちていないか、きたくないか、などを気にしながら登下校することが増えました。

そんなある日、三人でまたゴミ拾いをしていると、トラックで通りかかった六年生のお父さんが、こちらに向かって、手をふりました。それから特別な日、学校へ行くと、先生に呼ばれたので行ってみると、昨日通りかかった六年生のお父さんがゴミ拾いのことを、学校へ電話をしたそうなのです。その後、私達は先生にほめてもらえま

した。自分達が気になって行なっていた行動で、ほかの人々も気持ちよくなれると考えるとうれしくなり、またゴミ拾いをしたいなど、強く思えるようになりました。

あれから、三年が経ちますが、私達はまだゴミ拾いを続けています。三年生のときは、学校へゴミ拾いをするということは、伝えてなかったのですが、今は先生達と話をし、行なう日程を決めており、学校では火ばさみなどを貸してくれています。最近では、集会などの話で、よく話題に出していただきました。他にも、ちがう班の人達も、自主的にゴミ拾いをするようになりました。

私達の、思いつきの行動が、こんなにも、大きくなると思ってもらえなかつ

たのび、とてもおもしろかったです。ま
だ、じまめにゴミを捨てるようになってい
くといいですね。

